

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月11日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720287

研究課題名（和文） 人物埴輪からみた古墳時代のジェンダー構造に関する実証的研究

研究課題名（英文） A Study of Gender Structure in the Kofun Period as Reflected in the Human-shaped *Haniwa* Figurines

研究代表者

光本 順（MITSUMOTO JUN）

岡山大学・埋蔵文化財調査研究センター・助教

研究者番号：30325071

研究成果の概要（和文）：

本研究は、人物埴輪の分析・考察に基づいた、古墳時代のジェンダー構造の解明を目的とする。研究方法としては、東日本・西日本の古墳出土の人物埴輪群を対象に資料集成と観察を行った上で、古墳ごとに資料群のジェンダー分析を実施し、最終的に個別事例分析の地域間比較、および総合化を図った。その結果、人物埴輪の身体表現の中に、古墳時代におけるジェンダー化の過程の歴史的な性格、すなわち異性愛規範に基づく作用と、逆にそれを超越する作用との競合的な関係性が認められることを、実証的に明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This research clarifies the gender structure of the Kofun period through an analysis of the human-shaped *haniwa* figurines of the fifth to sixth centuries A.D. *Haniwa* is a general term that refers to ceramic funerary sculptures on mounted tombs (*kofun*) of the Kofun period. This research (1) gathers data on the human-shaped *haniwa* figurines of eastern and western Japan; (2) makes detailed observations of their bodily representations; (3) presents studies of the gendered process by analyzing the bodily attributes of the *haniwa* figurines excavated from each tumulus; and (4) studies the gender structure of the Kofun period through a comparative analysis of these case studies. As a result, this research brings to light a feature of the gendered process in the Kofun period: The competitive gendered processes of heteronormativity and anti-heteronormativity generated the bodily representations of the human-shaped *haniwa* figurines. Additionally, this research advances the theory and practice of a queer archaeological approach in Japanese archaeology.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：考古学、古墳時代、埴輪、ジェンダー、クィア、身体表現

1. 研究開始当初の背景

これまで私は、弥生時代・古墳時代の身体表現の歴史的特質に関する研究を行ってきた。ジェンダーというテーマは、こうした研究の一環において取り組んできた。私は、女性史を含むジェンダー考古学の学史を検討した結果、①従来の日本のジェンダー考古学が、男女の関係史の構築を主眼とするため、ジェンダー規範自体の形成メカニズムの主題化・問題化がなしえないこと、②アプリアリな男/女の二区分を前提とするという理論的問題を含むことを強く認識した。私は、従来の研究の功績を認めつつも、これまでの「女性」や「男性」といった〈主体〉の歴史によっては、ジェンダー規範の形成過程、および〈主体〉に包摂されない多様なジェンダー化作用の歴史性が解き明かせないと考える。代わりに、異性愛規範をはじめとする規範性への批判的視座を特色とする、クィア・スタディーズおよび欧米のクィア考古学の動向を注視しつつ、私は、ジェンダー考古学の新たな段階として、ジェンダー規範自体がどのように物質文化を経由して歴史的に形成されるか、というテーマ設定の必要性を認識するに至った。

〈主体〉から〈規範〉へという、この理論的立場のもと、実践的研究として私は人物埴輪の身体表現に着目した。一古墳において人物埴輪が複数個体出土した事例を素材に、髪型や乳房表現の有無という特定の属性のみによって、あらかじめ男/女に二区分する従来の形式分類とは逆に、個体間の属性（顔面装飾や装身具、身ぶりの種類等）の共有関係から、個体のジェンダー化のメカニズムを追究した。結果、属性の組み合わせが男/女の二区分を生み出す反面、男性的要素と女性的要素を併せもつ一群をも生み出すこと、そして、

顔面装飾や装身具等の属性が、異性愛規範を生み出すだけでなく超越する機能をも有すること、等を明らかにした。

これまで行ってきた古墳時代のジェンダー構造を追究するための理論と方法論、そして実践をもとに、本研究において分析事例・地域の拡大と、事例研究の総合化に取り組むことによって、古墳時代のジェンダー構造を、実証的に解明する基礎を築くことが可能となるものと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、人物埴輪を素材に古墳時代中期・後期社会のジェンダー構造を実証的に解明することにある。人物埴輪に関する事例分析の蓄積と地域比較を通し、当該期社会のジェンダー構造の歴史性、およびそれを生み出す物質文化の能動的様態を実証的に究明する。

本研究は、男女という〈主体〉の関係史の構築を目的とする従来の日本のジェンダー考古学とは異なり、ジェンダー規範の歴史的形成メカニズムに着目する視点に立つものである。本研究は、人物埴輪研究と古墳時代研究、ジェンダー史、ジェンダー考古学、そしてクィア考古学の発展に貢献する。

3. 研究の方法

本研究では、人物埴輪の属性分析に基づき、古墳時代のジェンダー構造に関する実証的研究を、資料集成、資料観察、事例分析、総合的考察というプロセスにおいて実施する。

資料集成では、関東地方、近畿地方、その他の地方を対象に、複数個体が良好に遺存する事例を中心に集成作業を実施する。そして

それら資料群について実見と観察を実施する。事例分析では、古墳ごとに人物埴輪の身体表現の属性を分類し、属性の共有関係からジェンダー区分の構造を抽出する。最後に、総合的考察として、古墳単位的事例分析をもとに地域間の比較検討を行い、古墳時代のジェンダー構造を追究する。

4. 研究成果

(1) 主な研究成果およびその学術的位置付け

① 人物埴輪に関する個別事例分析の進展

ひとつの古墳から複数個体が良好な状態で出土した事例を中心に、東日本・西日本各地の人物埴輪について観察および事例分析を実施した。資料観察では、ジェンダー分析および地域間比較を行うための基礎的認識を深めることができた。こうした個別事例分析は、実証的に古墳時代のジェンダー構造を論じるための基礎となった。

② 国際的・学際的視点に基づく研究の進展

ジェンダーに関する実証的研究を進める上で、クィア考古学の理論と方法論、実践に関して深化を図った。特に、異性装史をめぐる研究課題についてクィア考古学的視点から整理を行い、それを実証的研究にいかした。こうしたクィア考古学的試みは、従来の日本考古学において実施されてこなかったものである。本研究は、日本考古学における国際的・学際的研究の進展に貢献する、ひとつの試みとなった。

③ 古墳時代のジェンダー研究の進展

人物埴輪の事例分析とその総合化により、古墳時代のジェンダー化の過程に、異性愛規

範の作用と、それを超越する作用の競合的關係が認められることを明らかにした。

従来の研究では、異性愛規範および性別二元論的視点を前提とした分析・解釈が示されてきた。本研究ではそうした前提についてクィア考古学的観点から批判的に検討した上で、物質文化に内在するジェンダー化の過程に着目する視点を提示した。

なお、こうした研究成果については、TAG 2011 USA 2011 Berkeley 等にて口頭発表を行ったほか、それを骨子とする英語論文 (Between “Global Queering” and the Nation-state: The Possibilities of Queer Archaeology Seen Through its Application in Japan) の作成を実施した。

(2) 今後の研究の展望

① 同時代資料による検証の必要性

本研究は人物埴輪のジェンダー分析を実施し、一定の仮説を提示した。今後は、同時代の異なる種類の資料 (古墳の副葬品におけるジェンダー表象の問題等) から、仮説の検証を重ねていく必要がある。

② 長期的なジェンダー構造の追究の必要性

本研究は、人物埴輪を分析対象としたものであるため、対象とする時代については古墳時代中期～後期という限定されたものであった。今後はその前後の時代を含めたより長期的視点からのジェンダー構造の追究が必要となる。そのためには、異なる時代の資料を対象とした、実証的なジェンダー分析の蓄積が不可欠となるものと考えられる。

③ 国際的・学際的研究の推進の必要性

本研究では、従来の研究の枠組みとして前提化されてきた異性愛規範を批判的に見直

す上で、クィア・スタディーズならびにクィア考古学の視点を導入しながら研究をすすめた。今後も、日本考古学におけるジェンダー/クィア研究は、国際的・学際的な研究の発展に資するよう、いっそう努める必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

①光本 順、クィア考古学の可能性、論叢クィア、査読有、第2号、2009、pp. 95-107

[学会発表] (計2件)

①光本 順、Reconsidering Cross-dressing in Ancient Japan: Queer Archaeology of the Human-figured *Haniwa* Figurine in the Kofun Period、TAG (Theoretical Archaeology Group) USA 2011 Berkeley、2011年5月7日、米国 University of California, Berkeley

②光本 順、異性愛規範を問題化する—クィア考古学の試み—、近江貝塚研究会第196回例会、2010年2月27日、滋賀県埋蔵文化財センター

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

光本 順 (MITSUMOTO JUN)
岡山大学・埋蔵文化財調査研究センター・助教
研究者番号：30325071

(2) 研究分担者

()
研究者番号：
()
研究者番号：
()
研究者番号：
()
研究者番号：

(3) 連携研究者

()
研究者番号：